

今触れてほしい伝統文化が、ここにある

国と県の補助により、お手ごろな料金で本格的な伝統芸能を特別にご鑑賞いただけます。

観
能
の
夕
べ

毎週
土曜日開催
全9回

7/2025
7/5 Sat
8/30 Sat

17時開演
(16時開場/19時頃終了予定)
※詳しくは裏面をご覧ください。

通常公演／各1,500円
特別公演／[8月9日] 3,000円

※当日券同額 ※各回解説付き

石川県立能楽堂(076-264-2598)
石川県立音楽堂チケットボックス(076-232-8632)
石川能楽美術館(076-220-2790)
香林坊大和ブレイガイド(076-220-1332)
※石川県立能楽堂以外でのチケット販売は各公演日の3日前までとなります。
※高校生以下無料。ただし、入場券が必要となります。
入場券は石川県立能楽堂でお求めください。



チケット
のお求め

能楽体験を実施します！(全4回) ※詳しくは裏面をご覧ください。

主催/いしかわの伝統文化活性化実行委員会

会場・お問い合わせ/石川県立能楽堂 TEL&FAX 076-264-2598

〒920-0935 金沢市石引4-18-3



能の出演者 Performer of Noh

1 シテ 物語の主役です。演出も行います。

2 ワキ シテの相手役です。
3 後見 舞台の監督役です。

4 地謡

5 嘸子方

6 6m四方の本舞台には檜板が縦に張られています

7 太鼓

8 大鼓

9 小鼓

10 笛

アイ…能の前後場の間をつなぐ狂言をアイ(間狂言)と呼びます。



能楽体験のご案内

「観能の夕べ」をよりお楽しみいただくため、開演前に演目に関する体験を実施します。



■時間:各回15:00~(40分程度)※14:30~受付開始

■定員:各回20名程度(7/26の笛・太鼓体験のみ8名)※要事前申込・先着順

■料金:無料(当日の鑑賞者に限ります)※白足袋をお持ちの方はご持参ください。

■お申し込み・お問い合わせ:県立能楽堂 Tel.076-264-2598

字幕解説サービス「能サポ」

スマホを利用した字幕解説サービス「能サポ」を無料でご利用いただけます。字幕は日本語と英語での表示が可能です。なお、字幕解説は能のみとなります。



▲字幕解説サービス「能サポ」
は事前にこちらのQRコードから「EG-G」アプリ(無料)を
ダウンロードしてください。

金沢能楽美術館 関連行事

「観能の夕べ プレ講座(全3回)」

金沢能楽会の人気能楽師が、能の見どころを分かりやすく紹介します。

参加無料
(要観覧料、要申込)

第1回	第2回	第3回
7/5(土) 10:30~11:30 講師:松田 若子 [解説演目:7/5・12・19の能]	7/26(土) 13:00~14:00 講師:佐野 玄宜 [解説演目:7/26・8/2・9の能]	8/16(土) 13:00~14:00 講師:高橋 憲正 [解説演目:8/16・23・30の能]

■会場:金沢能楽美術館 3階研修室(各回50名)

■お申し込み・お問い合わせ:金沢能楽美術館 TEL.076-220-2790



アフタートークのご案内

今回もアフタートークを開催します。ぜひご参加ください！

第1回	7/5(土)	講師:藪 克徳、平木 豊男
第2回	7/19(土)	講師:松田 若子、中尾 史生

■時間:各回公演終了15分後より30分程度
■料金:無料(当日の鑑賞者に限ります)

■会場:見所

■お問い合わせ:県立能楽堂 Tel.076-264-2598

※詳しくは石川県立能楽堂のホームページをご覧ください。

写真提供:(公社)金沢能楽会



◆石川県立能楽堂
ホームページ

金沢駅兼六園口(東口)6番のりば
北鉄バス 出羽町
バス停より徒歩3分



公演予定



7/5

柿山伏 清水 宗治

修行の帰り道、喉が渴いた山伏は道中で柿の木を見つけます。柿の木へ登り柿を食べて喉を潤していると、そこへ柿畠の持ち主が見回りにあらわれ山伏を見つけています。木の陰に隠れた山伏を見て、動物の真似をさせてからかっていると…。

土蜘蛛 蔦 克徳

源頼光が病氣で寝込んでいると、見知らぬ僧が現れ、頼光に向かって蜘蛛の糸を投げかける。頼光が名刀・膝丸を抜いて斬りかかると僧は姿を消した。家臣の独武者は土蜘蛛の血をたどり、棲家を見つけ出して土蜘蛛を退治する。

7/12

雷 中尾 史生

都での商売がうまくいかないやぶ医者は、生活の拠点を奥州へ移すため長旅に出ます。武蔵野に差し掛かった時、突然雷鳴がとどろき、目の前に雷様が落ちてきました。腰を打ってしまい苦しんでいる雷様に、医者は治療を施しますが…。

竹生島 島村 明宏

延喜帝の臣下が竹生島参詣のために琵琶湖を訪れ、漁翁と女人が乗った船に同乗する。二人は竹生島の縁起を語り、社殿と波間にそれぞれ消えて行く。やがて弁財天と龍神が現れ、宝物を捧げ天下泰平を祝福する。

7/19

鐘の音 炭光太郎

主人から鎌倉へ行って「金(かね)の値(ね)」をきいてくるように命じられた太郎冠者は、寺々を巡り、様々な「鐘(かね)の音(ね)」を聞き比べます。帰って主人に報告しますが…。

巴 松田 若子

都へ向かう旅の途中、僧は神社の前で涙する女と出会う。女は神社の祭神が木曾義仲であると教え供養を勧めて消える。僧が弔いを始めるとき、武者姿の女が現れ、自分は義仲に仕えた巴の靈であると明かし、義仲の最期や奮戦の有様、女であるが故に最期の供を許されなかった無念を語り去って行く。

舞台芸術 世界最古の 幽玄の世界に浸る 日本の伝統美と

能楽とは What's Nohgaku?

「能楽」は、継承されている演劇としては「世界最古」といわれる日本独自の舞台芸術で、「能」と「狂言」からなります。日本で最初にユネスコ無形文化遺産に登録された世界が認める伝統芸能です。「能」では、笛や鼓による演奏と地謡と呼ばれるコーラス隊の謡にあわせて舞台上の人物が舞いながら物語を展開します。一方「狂言」は、庶民の日常生活を題材とした喜劇であり、会話を中心に物語が展開します。

加賀宝生 Kaga Hoshō

江戸時代、能は幕府の式楽となり、各地の藩でも能が盛んになりました。加賀藩前田家は能の宝生流(5流派の1つ)を手厚く保護・育成し、庶民にも広く推奨したことから、今では金沢といえば「加賀宝生」と言われるほど、発展を遂げています。



石川県立能楽堂 Ishikawa Prefectural Noh Theater

能楽文化の保存・継承及び振興の拠点として、昭和47年(1972年)全国初の独立した公立能楽堂として開館しました。能舞台は、昭和7年(1932年)に建てられた金沢能楽堂本舞台を移築したもので、国の有形文化財に登録されています。

石川県立能楽堂
ホームページ

X

7/26

酔薑 能村 晶人

都に商売へ向かう途中に出会った薑(山椒)売りと酔売り。薑売りが、自分に礼を尽くさなければ商売をさせないと言って、薑の由緒正しさを語ります。酔売りも負けじと由緒を語るので、決着が着きません。さて、争いの意外な結末は…。

8/2

成上り 炭 哲男

主人と太郎冠者が鞍馬へ参詣に出かけ、眠っていたところ、騙り者が現れて冠者が抱えていた主人の太刀を青竹にすりかえて逃げます。目を覚ました冠者は、太刀が青竹に成り上がったと主人に報告し、失態をごまかそうとしますが…。

8/9

三山 大坪 喜美雄

太郎冠者と次郎冠者は、主人から恋文をある人へ届けるよう命じられます。二人で交互に文を持ちながら進みますが、途中から竹竿に文を結び付けて運んでいると、なぜか文が重くなり…。

高砂 宝生 和英 宝生流二十代宗家

阿蘇の宮司が上京の途次、高砂の浦で松の木陰を掃き清める老夫婦と出会う。この夫婦こそ高砂、住吉の「相生の松」の精で、二人は松の木でたい謂れを説くが、やがて「住吉で待つ」と伝え神へ消える。住吉に着いた宮司は月夜に住吉門神が夜神樂を舞う奇縁を見る。

8/16

口真似 山田 讓二

もらい物の良い酒と一緒に楽しく飲んでくれる人を連れてくるよう命じられた太郎冠者は、知人の男を連れてきますが、彼は大の酔狂人でした。主人に叱られ、自分の言う通り振る舞えと言われた太郎冠者は、主人のことをすべて真似して客に繰り出しますが…。

8/23

清水 能村 晶人

主人から清水を汲みに行くよう命じられた太郎冠者は、面倒なので鬼に襲われたふりをして帰ります。しかし主人が、冠者が置いてきた家宝の桶を取りに行くと言ひ出します。

8/30

花月 福岡 聰子

7歳の子と生き別れ、出家した僧は春の都を訪れ、清水寺を参詣する。そこに花月と名乗る少年芸能者が現れ、恋の小謡、曲舞、鞨鼓(かっこ)など芸つくしを見せるが、やがて僧は花月こそ我が子であると悟って父子の対面を果たし、共に修行の旅に出る。

二人大名 炭光太郎

ある大名がもう一人の大名を誘って外出しますが、供を連れてこなかったので、通りがかりの男に無理やり太刀を持たせて歩きます。怒った男は太刀を振りかざし…。

猩々 広島 克栄

高風という孝行者は、夢のお告げで酒を売り次第に豊かな身となる。ある夜、高風が酒を持って濱陽江に行くと、妖精・猩々が現れ酒を飲み心地よく舞を舞い、高風の素直さを褒めて、酌めとも尽きぬ酒壺を与える。